

## 「2012 冬保養プログラム・ほよ〜ん相談会」報告

### 北海道から4団体が参加

3.11 受入全国協議会が発足して初めての「2012 冬保養プログラム・ほよ〜ん相談会」が12月1日郡山総合福祉センター（郡山市）で、2日りょうぜん里山がっこう（伊達市霊山町）で開催されました。1日は「安全・安心・アクション in 郡山」（略称3aの会、野口時子代表）、2日は「NPO 法人りょうぜん里山がっこう」（関久雄事務局長）との共催です。

相談会には、全国から20を超える受入れ団体が参加しました。北海道からは、むすびば（みかみ、富塚）・札幌協働福祉会・旭川サポートネットワーク・大沼駒ヶ岳ふるさとづくりセンターの4団体が参加しました。

### 次々と相談者が押し寄せた郡山相談会

1日の郡山の相談会は、午後1時の開始と同時に各ブースとも相談者が途切れることなく押し寄せ、まだまだ人々が不安の中で生活していることを浮き彫りにしました。私にとっては、夏休み前の相談会とまったく同じ光景の再現で何と表現していいのかわからず、言葉が出ませんでした。



地元、野口さんの「声をあげにくい郡山全体の空気のなかで、こんなに多くの人が集まるとは思わなかった」という言葉が印象的でした。

むすびばのブースには、24組の相談者が訪れました。地元郡山だけでなく、須賀川市、大玉村、福島市、会津若松市、そして隣県的那須塩原からも。相談内容は冬休みや春休み

保養の相談だけでなく、避難移住の相談が少なくありませんでした。

郡山から会津若松に避難された方は、一時避難してそのままそこに移住ということを考えており、就職口もある避難・移住先を探していました。今年1月から都営住宅に避難した方は、子どもの咳がひどくなり、東京に住めないと判断。札幌への避難移住を相談されました。いずれもまず妻の方が避難して夫が続くという順番でした。また、当然ですが、働き口のセットで避難先を求める

方が多くいました。12月28日で県外避難者向け住宅支援打切りという動きから避難を急ぐ方もいらっしゃいました。

保養の相談者はどちらかというと、過去に保養や一時避難をしたことのある方が多く、まったく経験のない人たちとの2極分化がすすんでいるのかもしれませんが。

受入れ先がないというダウン症のお子さんの保養相談がありました。札幌協働福祉会の方で冬休みキャンプの受入れ OK の返事をしたのですが、来年夏からの参加になりました。

### 里山にも多くの相談者の姿

2日の「りょうぜん里山がっこう」には前日に入り、木の香りただよ体験型宿泊施設「ほっこ里」に泊まり、ペレットストーブで暖をとりました。「りょうぜん里山がっこう」は廃校となった小学校を活用して、自然豊かな環境の中でのさまざまな体験学習を通じて、田舎暮らしの良さを発信していこうと12年を超える活動を展開してきました。関さんはここで本当に人間らしい生活と地域をつくっていこうとしていたのでしょう。原発事故はそうしたすべてを壊そうとしているのです。

里山の風景を見ながら奥へ奥へと入っていったところに里山がっこうがありました。ここまで相談者は来るのだろうかと思いきや、午前10時から始まるや予想以上の来訪者がありました。



むすびばのブースには12組の相談者が見えました。半分は伊達市ですが、残り半分は隣の桑折町や福島市内から来られた方々でした。冬休みの保養先を探している方が多かったのですが、乳児と一緒に受け入れ先が見つからないと来られた方もいました。仁木町のシェアハウス「山の家」を情報提供しました。

20代の独身女性は北海道の農業に関心を示していました。農業分野での雇用創出も急がれます。農村地帯のせいもあってか、ご夫婦の来場が目立ち、お父さ

ん主導で相談する姿も見受けられました。

## 二日間の相談会を終えて

「声をあげにくい空気の中」で押し寄せた相談者。この相談会は **Face to Face** で話すことのさまざまな意義を持っており、今後も継続することが重要ですが、それだけで充分かというやはり、ワンストップの常設相談窓口が最低限、郡山市・福島市・いわき市にほしいと思いました。

また、今後も継続して保養避難の情報提供しますよと言うとほとんどの方がお名前と住所、アドレスを書いてくれました。必要としている人にきちんと避難保養の情報が届く仕組みの早急な検討が必要と感じました。

今回も持ち帰って対応という案件がいくつかあります。都営住宅に避難した方が札幌に2次避難先を探していますが、応急仮設の適用がされないので困っています。仕事と避難をセットで求める人が複数いました。保養避難のニーズは少なくなっていない。むしろ、避難のニーズが今後増えそうな印象を受けました。応急仮設の提供制度が12月28日で廃止になれば、住宅の確保も私たちの重要な仕事になってきます。雇用も含めた避難受入れの高次な仕組みづくりが必要になっています。